

水田裏作イタリアンライグラスの栽培法について

藤原 帝見・陣野 久好

(長崎県総合農林センター)

FUJIHARA, S. and JINNO, H.

On the Culture of Italian Ryegrass as Winter Crop after Ordinary Seasonal Culture of Paddy Rice.

普通期水稲収穫後に播種し、翌年3回刈するイタリアン栽培法について、1965年から1967年まで若干の試験を行なったので、その概要を報告する。

試験方法

播種期を早播と晩播（1965年は10月20日と11月11日、1966年は11月10日と11月28日）、播種様式を散播と条播（播巾15cm、条間30cm）、播種量を10a当り2kgと4kg、施肥量を標肥と多肥（1965年はa当りN3kgと4.5kg、1966年は5kgと7.5kg）として L_{16} 直交表にわりつけ1区12m²で試験した。跡作水稲に及ぼす影響は1区12m²3区制として第1表第1、2区

の試験区と同じ耕種法で栽培したイタリアンと小麦および休閑跡に水稲サチミドリを均一に標準栽培した。

試験結果および考察

各試験区の生草収量は第1表の通りで第4区の早播散播厚播多肥区が約800kgで連続最多収を示した。要因別の水準間の収量差は第2表の通りで早播と散播および多肥が多収を示し、播種量は収量に影響しなかった。交互作用は播種期と播種様式、播種期と施肥量、施肥量と播種量間で有意であって、散播と多肥は早播で一層効果的で、また多肥条件では播種量をやゝ多めにするとよい傾向がみられる。イタリアン跡作水稲の生育収量は第3表の通りで多肥区は肥料の残効により初期から生育盛んで倒伏が著しかったが収量は区間に有意差が認められなかった。

以上を要するに普通期水稲跡イタリアンは11月中旬までに耕うん整地し、a当りN総量5kg（基肥1.5kg）程度の施肥量で、a当り0.3kgの種子を散播することにより安定した多収が期待される。

第1表 試験区構成と生草収量

区番	試験区				生草収量 (kg/a)	
	播種期	播種法	播種量	施肥量	1966年	1967年
1	早播	散播	薄播	標肥	734	718
2	〃	〃	〃	多肥	720	768
3	〃	〃	厚播	標肥	644	698
4	〃	〃	〃	多肥	798	799
5	〃	条播	薄播	標肥	620	722
6	〃	〃	〃	多肥	622	734
7	〃	〃	厚播	標肥	570	684
8	〃	〃	〃	多肥	694	764
9	晩播	散播	薄播	標肥	610	670
10	〃	〃	〃	多肥	734	686
11	〃	〃	厚播	標肥	656	701
12	〃	〃	〃	多肥	718	734
13	〃	条播	薄播	標肥	564	656
14	〃	〃	〃	多肥	762	620
15	〃	〃	厚播	標肥	552	627
16	〃	〃	〃	多肥	692	636

第3表 イタリアン跡の水稲生育収量 (1967年)

試験区	項目	出穂期 (月, 日)	成熟期 (月, 日)	倒伏	もみわけ (%)	精玄米重 (kg/a)
イタリアン	標肥	8.27	10.16	多	104	55.3
	多肥	8.28	10.19			
小麦	休閑	8.27	10.16	中	105	52.9
		8.27	10.16	多	108	52.3

・有意水準 (5%) ** (1%) *** (0.1%)

第2表 各要因の水準別生草収量 (kg/a)

要因	水準	1966年					1967年				
		3月25日	4月27日	6月17日	合計	4月5日	5月10日	6月17日	合計		
播種期	10月10日(11月10日)	155	34*	266	274	675	281	84**	340	116	736
	11月11日(11月28日)	101		313	247	662	197		341	-15	666
播種様式	散播	125	10	506	271	702	250	25	351	123	722
	条播	113		272	250	634	227	21	350	-1	680
播種量	厚播	112		281	271	666	261	45	352	115	705
	薄播	124	-24	298	249	671	216		349	-18	696
施肥量	多肥	158	40*	327	250	717	270	65*	340	111	718
	標肥	98		251	270	619	207	5	345	-25	685